



## 2024年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年11月8日

上場会社名 株式会社enish 上場取引所 東  
コード番号 3667 URL <https://www.enish.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 安徳 孝平  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 魚屋 和彦 TEL 03(6447)4020  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年12月期第3四半期の業績 (2024年1月1日～2024年9月30日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第3四半期	2,473	△9.7	△704	—	△742	—	△745	—
2023年12月期第3四半期	2,737	△15.9	△939	—	△975	—	△1,016	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第3四半期	△31.53	—
2023年12月期第3四半期	△58.93	—

(注) 2023年12月期第3四半期及び2024年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期第3四半期	1,891	1,026	54.1	38.09
2023年12月期	1,893	508	26.7	23.43

(参考) 自己資本 2024年12月期第3四半期 1,022百万円 2023年12月期 504百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年12月期	—	0.00	—	—	—
2024年12月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
2024年12月期の期末配当予想につきましては、現在未定であります。

### 3. 2024年12月期の業績予想 (2024年1月1日～2024年12月31日)

2024年12月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算出ができないことから記載しておりません。  
なお、当該理由等につきましては、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年12月期3Q	26,842,926株	2023年12月期	21,543,560株
2024年12月期3Q	634株	2023年12月期	51株
2024年12月期3Q	23,632,766株	2023年12月期3Q	17,249,853株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(セグメント情報等の注記) .....	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	6
3. その他	
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和により、社会経済活動の正常化が進んだ一方で、世界的な原材料高騰による物価上昇の影響で、景気の先行きは極めて不透明な状況が続いております。

当社においては、従業員の安全性を考慮し、恒久的なテレワーク（在宅勤務）制度を導入しており、通勤時間が不要になるなど、従業員満足度の向上が図られたとともに、場所を問わずチーム体制が有効に機能したこともあり、ゲームアプリの運用・開発面での生産性向上につながっております。

このような事業環境の中、既存タイトルについては、運営施策の工夫により売上の逡減を最小限に抑え、リリース14年目を迎えた「ぼくのレストラン2」や「ガルショ☆」は、コラボレーション施策等が好調に推移し、引き続き当社の売上収益に大きく貢献しております。よりきめ細やかな対応を図り、ユーザーの皆様の満足度向上に努めてまいります。

リリース2周年を迎えた大人気作品『進撃の巨人』のスマートフォンゲーム「進撃の巨人 Brave Order」は、2024年11月8日よりアニメ劇場版『進撃の巨人 完結編 THE LAST ATTACK』の3週間限定公開が決定しており、それに伴い、ゲーム内のさらなる活性化を図るため、新規ユーザーの流入や呼び戻し施策や出演人気声優を起用した公式放送を行い、番組とゲームで連動した企画の実施や機能改善など、引き続き魅力的なイベント施策を行い、収益寄与につなげてまいります。

リリース4年目を迎えたアニメ『五等分の花嫁』初のスマートフォンゲーム「五等分の花嫁 五つ子ちゃんはパズルを五等分できない。」は、累計800万ダウンロードを突破し、当社の業績に貢献しております。イベント施策や書き下ろしイラストの充実など、引き続き魅力的な施策を行い収益寄与につなげてまいります。

アニメ『ゆるキャン△』初となるオンラインゲーム「ゆるキャン△ つなげるみんなのオールインワン!!」は、長期メンテナンスを実施し、新機能の追加や機能改善を行い、再度配信をいたしました。

2024年3月にリリースいたしました全世界でサービス提供中のゲームプラットフォーム「Roblox」に向けた『ドラえもん』のアクションレースゲーム「ドラえもん のび太のゴーゴーライド!」は、ゲーム内のさらなる活性化のため、継続したプロモーションや機能追加を実施していきます。なお「Roblox」へのゲーム配信は、パブリッシングをGeekOut株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：田中創一朗）が、開発・運営をenishが行う、2社の協業体制で実施しております。

また、足元の状況としては、累計ダウンロード数900万突破のスマートフォン向けドラマチック共闘オンラインRPG「De:Lithe～忘却の真王と盟約の天使～」をベースとした、モバイルゲームクオリティのブロックチェーンゲーム「De:Lithe Last Memories（ディライズ ラストメモリーズ）」を2024年8月15日にリリースいたしました。また、2024年9月26日にはガバナンス・ユーティリティトークン「GEEK」が、暗号資産取引所「Gate.io」「Bitget」に上場いたしました。プレイ環境やゲームの不具合等の解消、またトークノミクスの変更等、試行錯誤を続けております。当四半期でも一定の売上貢献はあったものの、今後の課題が明確となったため、様々なご意見やフィードバックを反映させるとともに、魅力的なキャンペーン施策を行い、今後の収益寄与につなげてまいります。

なお、当社は株式会社HashPaletteより不当利益返還請求として176百万円の訴訟が提起されておりますが、今後、先方の主張及び請求内容を精査し適切に対処してまいります。今後の進捗に伴い、開示すべき事項が判明した場合には、すみやかにお知らせいたします。

当事業年度においては、既存タイトルの効果的運営を推進するとともに、新規IPタイトル開発及びブロックチェーンゲーム開発に人材を投入しております。引き続き、有力案件を確保し、年1～2本ペースでの新規タイトルリリースを行うことで利益を積み上げ、企業価値向上を図ってまいります。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高は2,473百万円（前年同四半期比9.7%の減少）、営業損失は704百万円（前年同四半期は939百万円の営業損失）、経常損失は742百万円（前年同四半期は975百万円の経常損失）、四半期純損失は745百万円（前年同四半期は1,016百万円の四半期純損失）となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末の流動資産につきましては、前事業年度末に比べて2百万円増加し、1,607百万円となりました。これは現金及び預金の減少（前事業年度末比140百万円の減少）があった一方で、売掛金の増加（前事業年度末比9百万円の増加）、前払費用の増加（前事業年度末比2百万円の増加）、その他流動資産の増加（前事業年度末比130百万円の増加）によるものであります。固定資産につきましては、前事業年度末に比べて3百万円減少し、283百万円となりました。これは主に、敷金及び保証金の増加（前事業年度末比5百万円の増加）があった一方で、その他の投資資産の減少（前事業年度末比7百万円の減少）によるものであります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ1百万円減少し、1,891百万円となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末の流動負債につきましては、前事業年度末に比べて519百万円減少し、861百万円となりました。これは主に、短期借入金の減少（前事業年度末比450百万円の減少）、契約負債の減少（前事業年度末比45百万円の減少）によるものであります。固定負債につきましては3百万円となりました。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ519百万円減少し、865百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べて517百万円増加し、1,026百万円となりました。これは主に、四半期純損失を745百万円計上したものの、第三者割当による行使価額修正条項付第17回及び18回新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ631百万円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期につきましては、既存タイトルの売上高の維持と効率的な運営体制の見直しを行い収益力の強化を図ってまいります。また、売上収益の拡大を目的に、新規で年間1～2タイトルをリリースしていく方針です。今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、開発の長期化や開発費の高騰など各種リスクの低減を図りながら、高品質なタイトルの開発を行ってまいります。

さらに、ブロックチェーンゲーム市場の急速な拡大と活性化のなかで、当社はブロックチェーン技術を活用したサービス開発に早期参入しノウハウと知見を獲得し、グローバル展開も視野に入れた、ブロックチェーンを活用した魅力的なゲームの開発及び関連事業への展開を行ってまいります。

業績予想につきましては、モバイルゲーム事業を取り巻く環境の変化が激しく、当社の業績も短期的に大きく変動する可能性があること等から、信頼性の高い業績予想数値を算出することが困難となっているため、決算業績及び事業の概況の速やかな開示に努め、業績予想について開示は見合わせております。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,093,586	952,633
売掛金	371,333	381,131
前払費用	80,942	83,496
その他	59,898	190,694
流動資産合計	1,605,761	1,607,956
固定資産		
有形固定資産	15,399	13,748
無形固定資産	1,252	899
投資その他の資産		
投資有価証券	40,659	40,659
関係会社株式	133,580	133,580
敷金及び保証金	85,160	90,660
その他	11,582	4,159
投資その他の資産合計	270,982	269,060
固定資産合計	287,634	283,708
資産合計	1,893,395	1,891,665
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	129,772	103,546
短期借入金	750,000	300,000
未払金	115,238	141,516
契約負債	323,872	278,044
その他	61,681	38,382
流動負債合計	1,380,564	861,490
固定負債		
その他	4,286	3,795
固定負債合計	4,286	3,795
負債合計	1,384,851	865,285
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,757,545	4,389,188
資本剰余金	3,756,545	4,388,187
利益剰余金	△7,009,271	△7,754,576
自己株式	△40	△184
株主資本合計	504,779	1,022,614
新株予約権	3,765	3,765
純資産合計	508,544	1,026,379
負債純資産合計	1,893,395	1,891,665

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
売上高	2,737,701	2,473,477
売上原価	3,000,115	2,497,003
売上総損失(△)	△262,414	△23,525
販売費及び一般管理費	676,654	681,260
営業損失(△)	△939,069	△704,786
営業外収益		
受取利息	1,674	1,871
債務免除益	1,277	—
過年度消費税等	—	6,000
為替差益	6,779	—
その他	1,424	171
営業外収益合計	11,156	8,043
営業外費用		
支払利息	45,108	34,033
株式交付費	1,417	5,310
その他	1,020	6,355
営業外費用合計	47,546	45,699
経常損失(△)	△975,459	△742,441
特別損失		
関係会社整理損	13,500	—
特別退職金	24,747	—
特別損失合計	38,247	—
税引前四半期純損失(△)	△1,013,707	△742,441
法人税、住民税及び事業税	2,851	2,863
法人税等合計	2,851	2,863
四半期純損失(△)	△1,016,559	△745,305

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当社は、前事業年度まで9期連続となる営業損失及び10期連続となるマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しており、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社は、当該事象又は状況を解消し事業基盤及び財務基盤の安定化を実現するために、以下の対応策を講じております。

## ①事業基盤の安定化

徹底的なコスト削減や、事業の選択と集中により、事業基盤の安定化を図ってまいります。具体的には、既存タイトルについては、各タイトルの収益状況に応じた人員配置を行うなど運営体制の見直しを継続的に行うことによりコスト削減を図るほか、その中においても収益が見込めない既存タイトルについては、それらの事業譲渡・配信終了も視野に対応する方針であります。また、他社IPタイトルとのコラボレーションを実施するなど、他社IPの協力を得ることによりユーザーのログイン回数や滞在時間の増加を図り、売上収益の拡大を進めてまいります。今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、高品質なタイトルの開発を推進いたします。人員体制及び協力企業の制作者力・技術力を踏まえ、過去事例を参考に慎重に工数を見積もることで、開発スケジュールの遅延等による開発費の増加が生じないように努めてまいります。また、IPの価値と経済条件を踏まえ収益性が高く見込まれるタイトルに対して優先的に開発・運営人員を配置することにより、当社の収益改善を図ってまいります。

## ②財務基盤の安定化

財務面につきましては、財務基盤の安定化のため、複数社の取引金融機関や協業先と良好な関係性を築いており、引き続き協力を頂くための協議を進めております。なお、2024年3月21日付で発行した第三者割当による行使価額修正条項付第17回及び第18回新株予約権が2024年7月29日までにすべて行使された結果、1,261,370千円の資金調達をしており、財務基盤の安定化が図られております。売上高やコスト等の会社状況を注視し、必要に応じてすみやかな各種対応策の実行をしてまいります。

上記の対応策を講じていくとしても、既存タイトルの売上動向、新規タイトルの売上見込及び運営タイトルの各種コスト削減については将来の予測を含んでおり、引き続き業績の回復状況を慎重に見極める必要があることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期財務諸表に反映しておりません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第3 四半期累計期間において、新株予約権の行使に伴い新株式5,300,000株の発行を行いました。この結果、当第3 四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ631,642千円増加し、当第3 四半期会計期間末において資本金が4,389,188千円、資本準備金が4,388,187千円となっております。

## (セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

当社は、エンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3 四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3 四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3 四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3 四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	3,490千円	3,569千円



### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度まで9期連続となる営業損失及び10期連続となるマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しており、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

なお、詳細につきましては、「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (継続企業の前提に関する注記)」に記載しております。